

「築地市場」移転で調査重ねる

都議会公明党の「築地市場問題調査特別チーム」として7日朝、築地市場を視察するとともに、市場業界5団体の首脳と意見交換しました。



④市場内の鮮魚の荷捌き場。所狭しと鮮魚が並ぶなか、多くの人々が行きかう。⑤市場で働く5団体の首脳とつこんだ意見交換。早期「移転」への決意が挙げられた。



築地市場は昭和10年2月の開場から、既に73年が経過。このため、施設の老朽化や狭隘化が激しく、平成13年の都計画で豊洲地区への移転が決定しています。

実際に市場内を見て回ると、各施設の老朽化は思った以上。また、衛生面でも、水周り設備の不足やアスベスト対策も完全とはいええず、＜食の安全が十分確保されている＞とは言いきれない状況でした。

意見交換では、築地での「現在地再整備」が如何に困難であるかについて多方面から説明があったほか、豊洲への「移転」を一旦

白紙に戻して、改めて別の地域を検討することについては、「業界内の合意形成にまたしても長い年月を費やすことになり、とても現実的ではない」との意見が多く挙りました。

○「豊洲」以外の5つの代替地へも○

7日の築地市場の視察に続いて、「特別チーム」として18日、都が移転地としている「豊洲」地区以外の、5つの代替地を視察しました。

5つの地区とその面積は、①晴海地区（30ha）、②有明北地区（27ha）、③羽田空港跡地地区（53ha）、④東京都立東京港野鳥公園（24ha）、⑤大井埠頭地区（45ha）。

あくまでも個人的な見解ですが、このうち、②の有明北地区は用地が道路と線路で3つに細かく分断されている、③の羽田空港跡地地区は地形がまったく不整形であり、いずれも素人目で見ても代替地として不適當。また、④の東京都立東京港野鳥公園は自然保護の観点から、そして、⑤の大井埠頭地区は土地の埋め立てに約10年かかる、との理由から、これらもまた現実的ではないと言わざるを得ません。よって、面積は豊洲（41ha）に比べて手狭なものの、この日視察した中では、唯一、①の晴海地区だけが豊洲に代わる用地として「再検討に値する」との認識を持ちました。